

大塚 栄二

1961年鹿児島県川内市生まれ。2歳の時に両親の移住で東京へ。大学卒業まで東京に住む。22歳で精密機器メーカーへ就職と同時に長野県へ。以来30年余りを長野で過ごす。2018年5月に福島県へ転勤。カメラ、顕微鏡、内視鏡の製造技術(製品をどう作るかを考える仕事)に従事。カメラを造ることから次第に写真自体にも興味が広がり、現在では作品としての写真作りに活動の場を広げている。Abox Photo Academyではアドバンストplusコースに通いアーティストとして作品を制作する傍ら、写真基礎講座の講師も務める。

■主な受賞歴、写真活動歴

- 2016 個展「ひーじゃーの島」(HoloHoloCafe)
- 2017 JPCO展2017東京、京都(Kyvoto Graphie サテライト展示)
- 2018 チームチャンピオンズカップ 2018 優勝、最優秀写真家賞
- 2019 個展「光で画く」(Space K 代官山)
- 2019 Abox Photo Academy 写真展2019

■写真講座講師

- 2018.8-9 EXA-Photoワークショップ「光で画く」第1期
- 2019.2-4 EXA-Photoワークショップ「光で画く」第2期
- 2020.7-12 EXA-Photo 写真基礎講座

作品介绍Webサイト

<https://www.eijitsuka.com/>



ちょうびらこ

ちょうびらこは家の神である。柳田国男の「遠野物語」では、家に居つくことで富をもたらし、去ることで不幸が訪れるものとして描かれている。

東北の地に赴任して2年ほどが過ぎた昨夏、遠野郷土淵村を訪れた。かつてちょうびらこがいたとされる村である。ふたりの少女が野原でしゃぼん玉遊びをしていた。しゃぼん玉は風に乗って高く舞い、ふっと弾けて消えた。

*

空気のように当たり前にそこにあって、人生に小さなたくさんの幸せをもたらしてくれているもの。何気なく過ごしている日々の中では、その儚さに気づかない。離れて初めてそれがかけがえのないものだったことに気づくのである。

大塚 栄二